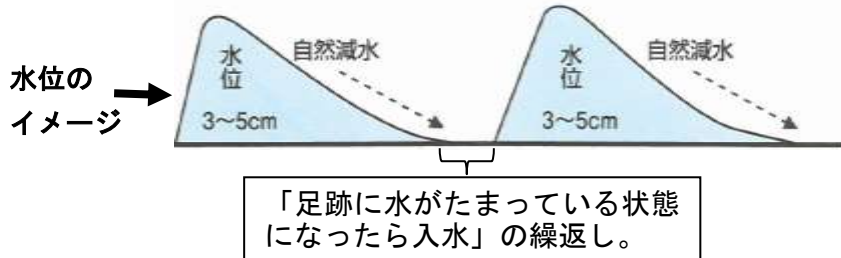


適切な水管理と生育診断によりの確な穂肥を実施！

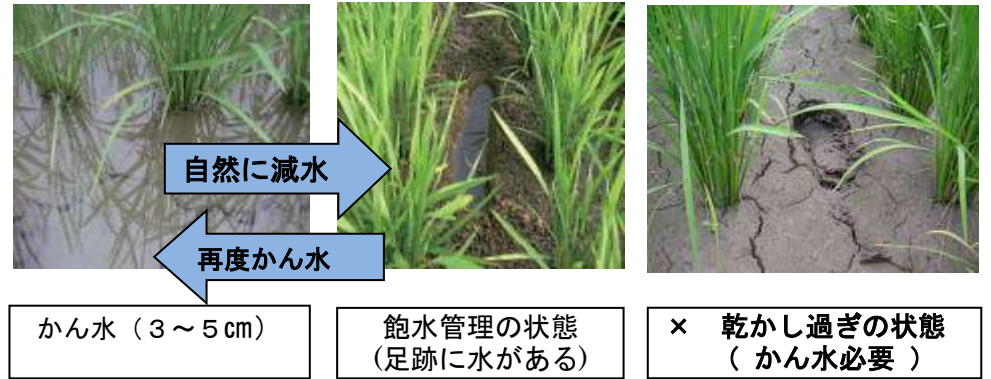
1 中干し後の水管理

- (1) 出穂1か月前には中干しを終了する。
- (2) その後は、浅水の間断かん水から徐々に飽水管理（田面や足跡や溝に水が溜まっている状態）へ移行する。

飽水管理のイメージ



【飽水管理の方法】



2 品種別出穂期と穂肥時期のめやす(分施肥系)

○コシヒカリ出穂期は、平年より2日程度「やや早い」と予想される。(今後の生育や気象の推移等で変わります)

品種	出穂期めやす	1回目穂肥		2回目穂肥		2回合計窒素量 (kg/10a)
		時期	出穂期前日数	時期	出穂期前日数	
新潟次郎	7/16頃	6/16~6/21頃	30~25	7/2頃	14	6
五百万石	7/19頃	6/29頃	20	7/7頃	12	1~2
つきあかり	7/19頃	6/19~6/24頃	30~25	7/5頃	14	3~3.5
わたぼうし	7/21頃	6/29~7/1頃	22~20	7/9~7/11頃	12~10	2~3
こしいぶき	7/25頃	7/2頃	23	7/11頃	14	2~3
こがねもち	7/27頃	7/9~7/12頃	18~15	7/17頃	10	1~3
コシヒカリ	7/31頃	7/13~7/16頃	18~15	7/21頃	10	1~3

- 稚苗5月10~15日頃、中苗5月15~20日頃の移植を想定。
- 穂肥時期は化成肥料の使用を想定。
- 今後の気象等で出穂期は変動する。
- つきあかりや新潟次郎で穂肥時期のめやす前に葉色が低下した場合は、早めに施用する。

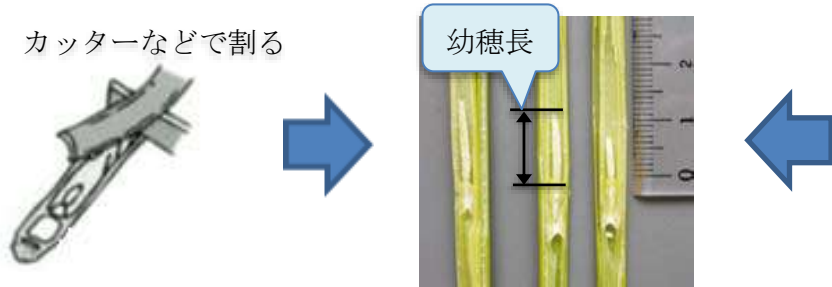
- (1) 1回目の穂肥時期を、ほ場の出穂期の記録(これまでの栽培履歴)や表の出穂期前日数を参考に、あらかじめ予測し計画しておく。
- (2) 穂肥は浅水状態で施用し、出穂期後25日以上は飽水管理とする。
- (3) コシヒカリで全量基肥施肥(一発肥料)でも、出穂期までのSPAD値が32~33を下回ると予想される場合は、追肥を検討する。

3 穂肥診断のポイント ~ほ場ごとに自己診断しよう!~

○穂肥の時期や量は必ず稲の生育状況を確認し、気象予報や病害虫の発生状況、地力等により総合的に判断する。

(1) 穂肥診断の手順 (幼穂長で出穂期前日数を確認し、草丈と葉色で施用時期と施用量を判断する。)

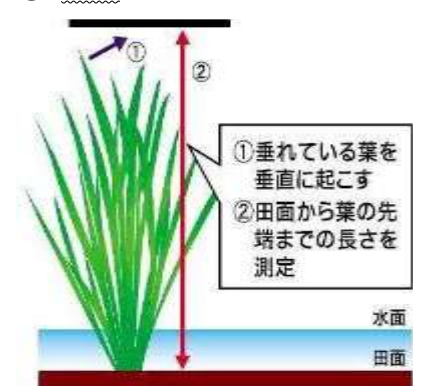
① 幼穂長を測り、出穂前日数を確認する。



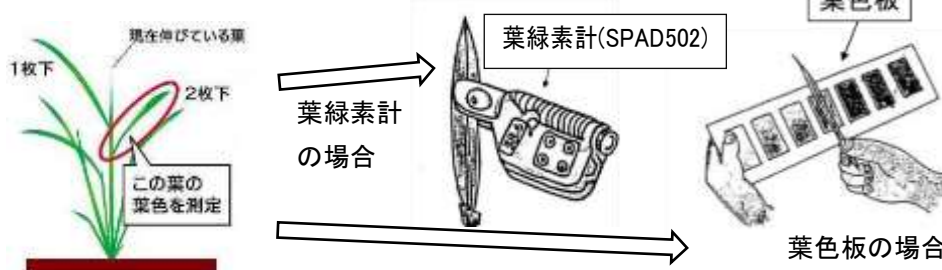
【幼穂長と出穂前日数のめやす】

幼穂長(cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2~0.4	20日
0.5~1.0	18日
4~6	12日
8~11	10日

② 草丈を測る。



③ 葉色(単葉)を測る。



○草丈と葉色は、水口や畦畔際を除き、ほ場内の生育中庸株を5~10株程度を測定し平均する。

(2) こしいぶきの穂肥例

【1回目の穂肥時期及び施用量】

時期：出穂期23日前
施用量：窒素成分量 1.0kg/10a
※1回目は幼穂形成期頃となるので、幼穂を確認し、遅れないように施用する。

【2回目の穂肥時期及び施用量】

時期：出穂期14日前
施用量：窒素成分量 1.0kg/10a
※低地力ほ場や後期栄養の不足が懸念される場合は、窒素成分量を 1.5kg/10a とする。